

講義名	対)19～観光文化論/15～文化観光論			
担当教員	山川 拓也			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

本科目の目的は、「人間の文化としての観光（観光文化）が、私達の生活や生き方などどのような意味を持つのか、また社会全体においてどのような位置に受容されているのか」という、観光での基本的なテーマに関する考えを深めていくことである。そのための関係する知識・概念等の習得を通して「観光の文化的構造」を理解し、「生活文化としての観光の意義と重要性」を一層深く認識できるようにすることを旨とする。

具体的には以下の内容について学習する。

- ・旅や観光という現象がどのような形で行われてきたかを中心に、それらが社会に与えた影響や時代毎の評価など、過去の観光の姿を理解する。
- ・20世紀以降における観光の特徴的な動きについて、主要テーマ毎に紹介することにより、現代の人が好み、求める観光の形を把握する。
- ・20世紀後半から議論され始めた「新しい観光」の概念を理解し、これから私達は観光にどのような向き合っていくべきなのかを考える。

到達目標

- ・観光の文化的構造および関係する知識・概念等を理解し、生活文化としての観光の意義と重要性を認識できるようになる。

提出課題

- ・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「ミニッツ・ペーパー」（responにて実施）
- ・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「理解度確認（小テスト）」（Ryuka portal内のmoodleにて実施）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

「理解度確認（小テスト）」に関しては、翌週の授業までにRyuka portal上に正答と解説を記したフィードバック画面を開示する。また「ミニッツ・ペーパー」の内容で解説等を加える必要があると判断したものは、合わせてフィードバック画面に記載する。

評価の基準

下記による総合評価とする。

毎回の「理解度確認（小テスト）」の累積得点率： 50%
 期末試験（対面方式にて実施予定）： 50%

*毎回の出席確認は、「responを用いて嚴格に実施する。
 *「ミニッツ・ペーパー」の提出がない場合、教室内に居た者であっても当日の出席は無効とする。
 *の「理解度確認（小テスト）」の提出がない場合、得点は0（ゼロ）点となり、成績評価に影響を及ぼす。
 *累積の欠席回数が5回以上になった場合、評価を受ける資格がなくなる。（失格/E）
 *遅刻（始業の長短を問わない）は、2回で1回の欠席としてカウントする。
 *スキャン等の電子機器類の所持品かつ私的な使用、私談や雑談の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。
 *ミニッツ・ペーパーの記述内容が優れた場合、一定基準のもとで加点する。

履修にあたっての注意・助言他

本科目は、人間社会学部の「学部専門基礎科目」に位置づけられる。その意味は、いずれの学科に所属するかに関わらず人間社会学部の所属学生が、専門科目を受講する上での共通基盤を形成できるようにするものである。したがって、本科目の意義と重要性を十分に認識して受講に臨むことを切に願う。

教科書	.観光文化学 旅から観光へ、 飯田芳也	古今書院	¥2500+税	978-4-7722-3147-3

プリント資料及び参考文献

プリント資料： 毎回の授業では講義レジュメを配布し、パワーポイントを使用して授業を実施する。
 参考文献： 講義中に適宜紹介する。

- 授業計画**
- 1.【ガイダンス・開題】 科目概要・授業方法・成績評価等の説明（ガイダンス）、「旅の原点」について（開題）
 - 2.【観光と文化】 観光と文化のさまざまな面について、「ホストとゲスト論」について
 - 3.【観光の起源】 古代から中世までの観光の歴史と文化的形態について
 - 4.【観光と教育】 「学びとしての観光」の文化的形態について
 - 5.【パカンスと観光】 「娯楽」としての観光の文化的形態について
 - 6.【近代観光の始まり】 19世紀に成立した近代観光の文化的形態について
 - 7.【マストツーリズムの台頭】 20世紀になって隆盛した大量消費型観光の文化的形態について
 - 8.【団体旅行と個人旅行】 近年における旅行スタイルの変化について（前編）
 - 9.【団体旅行と個人旅行】 近年における旅行スタイルの変化について（後編）
 - 10.【構想文化としてのテーマパーク】 観光における「非日常性の演出」について
 - 11.【伝統文化のイベント化】 観光における「真正性」について
 - 12.【伝統文化集積としての宿泊施設】 観光における「文化の商品化」
 - 13.【オーバーツーリズムとSDG's】 観光の「負の効果」の克服について
 - 14.【次世代ツーリズム】 現代社会における観光の評価と将来について
 - 15.【まとめと総括】

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- （予習：120分/回）
- ・教科書の該当講義部分を読んで要点を整理し、効率的な受講に備える。
- ・新聞や雑誌を含む書籍類、インターネット等のメディア情報にアクセスし、授業内容や観光文化に関連する情報を収集しておく。
- （復習：120分/回）
- ・当日の授業を整理するとともに、テーマに関する動画類を検索・視聴するなど、学修の効果的な定着に努める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は、人間社会学部の学部専門基礎科目として、「人間社会における文化としての観光」について学ぶために開講されるものであって、本学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に提示される「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身に付けておくべき資質・能力」の中で、以下の項目に対応するものである。

- ・現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる。（課題発見力）
- ・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる。（情報分析力）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・毎回の授業後に実施する「理解度確認（小テスト）」や「ミニッツ・ペーパー」等の課題への取り組みにおいて、moodleやrespon等のICTを活用する。
- ・必要に応じて授業中でもresponを使用し、意見収集等を行うことがある。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
 旅行業および旅行サービス手配業での実務経験（欧州を中心とする海外団体旅行の企画作成、営業、添乗、海外駐在、市場戦略策定）によって得た知識・知見を活用し、分かりやすい事例紹介なども取り入れながら、本科目の目標に学生が到達できるように努める。

備考

本科目は「座席指定制」にて実施する。進捗状況によって授業の進行方法や内容を変更する場合があります。その場合には事前に告知する。